

人が輝き まちがときめく
ふれあひ 交流都市

広報

のぼりべつ

2001/3/1

No.605

2月3日と4日間の2日間、中登別町の『登別伊達時代村』の駐車場を会場に、登別観光協会主催による『第1回市民戦国雪合戦大会』が開催され、6チーム108人が参加しました。

この雪合戦大会は、大阪冬の陣をテーマに戦国武将のいでたちをした選手たちが、刀ではなく雪玉を武器に合戦を繰り広げるといったもの。

3日は、地吹雪と厳しい寒さの中での戦となりましたが、参加した『武将』たちは冬を退けんばかりの熱い戦を見せていました。



特集①

まちの事業探訪

特集②

の新生マリリンパークの始動

まちの事業探訪

市は、私たちのまち『のぼりべつ』が、市民のみなさんに愛され、ともに喜ばす喜びを見いだせるまちにするため、さまざまなまちづくりを進めています。

今号では、平成12年度に市内で行われた主な事業の経過をお知らせします。

平成12年度
市内で行われた
主な事業

①市制施行30周年記念式典に要する経費



▲登別温泉小学校オニッコマーチングバンド & カラーガースなどの演奏が行われた記念式典

平成12年8月1日(火)、市民会館を会場に市制施行30周年を祝う記念式典を行い、姉妹都市をはじめとする道内外の市町村や各種団体などの関係者約600人が出席しました。式典では、さまざまな郷土芸能が披露されたほか、21世紀のまちづくりに向けた決意表明が行われました。(事業費は、約170万円)

▶問い合わせ 総務課 (☎1130)

▼平成12年9月2日と3日に行われた「ハートtoはあとinのぼりべつ」でのオープニングパレード



新たな世紀に向けたまちづくりの決意を市民総意で表すため、『体感のぼりべつ夏イベント』や『ハートtoはあとinのぼりべつ』、『のぼりべつ市民大学』など、さまざまなイベントを実施した市民実行委員会の各種事業・活動を支援するため、補助金を交付しました。(平成12年度の補助金は、2,200万円)

▶問い合わせ 企画広報室

(☎1122)

③市制施行30周年・西暦2000年記念事業補助金

環境の保全に関する基本理念や市民・事業者・行政の役割分担などを定めた『環境基本条例』と、その具体的な取り組みを示した『環境保全行動指針』を普及啓発するため、それぞれパンフレット(要約版)を作成します。パンフレットは、『広報のぼりべつ』に折り込み、全戸配布する予定です。

また、中長期的な視点に立った環境行政を総合的に推進する『環境基本計画』などの策定に取り組み、平成13年度中の完成を予定しています。(事業費は、約820万円)

▶問い合わせ 企画広報室

(☎1122)

②総合的な環境保全の推進に要する経費

平成12年度の主な事業

◆総務費

- ①市制施行30周年記念式典に要する経費
- ②総合的な環境保全の推進に要する経費
- ③市制施行30周年・西暦2000年記念事業補助金
- ④全国鬼サミット事業補助金
- ⑤行政情報化推進事業(ネットワーク構築)

◆民生費

- ⑥在宅介護支援センター運営に要する経費
- ⑦子育て支援センター運営に要する経費
- ⑧登別富浦路線歩道整備事業

◆衛生費

- ⑨クリンクルセンター運営管理に要する経費
- ⑩廃棄物管理型最終処分場運営管理に要する経費
- ⑪家庭系ごみ有料制実施経費
- ⑫ごみ収集運搬業務の委託料

◆労働費

- ⑬婦人センター大規模改修事業

◆農林水産業費

- ⑭市民農園開設に要する経費
- ⑮札内高原館運営管理に要する経費

◆商工費

- ⑯産業フェア2000in登別への補助
- ⑰カルルス温泉サンライバスキー場の整備

◆土木費

- ⑱ロードヒーティング整備事業
- ⑲北駅前通りの整備事業
- ⑳まちづくりアクションプラン策定に要する経費
- ㉑市営住宅(桜木団地)建て替え事業
- ㉒登別温泉バイパス(道道倶多楽湖公園線)整備事業

◆消防費

- ㉓消防緊急通信指令施設整備事業

◆教育費

- ㉔西陵中学校校舎大規模改造・地震補強事業

- ㉕人と自然のふれあい拠点整備事業

◆公共下水道事業特別会計

- ㉖公共下水道事業

◆介護保険特別会計

- ㉗保険給付費



8 登別富浦路線歩道整備事業

平成7年度から、登別富浦路線のNTT登別東電話交換所付近から登別川に架かる登別橋までの区間1.178kmの歩道整備を行っています。平成11年度までは登別橋付近までの歩道の拡幅を行い、平成12年度は登別橋の下流側に架かる歩道橋の架設を行っています。歩道の拡幅と歩道橋の設置は平成13年度中に完成予定です。(平成12年度の事業費は、約5,150万円)

▶問い合わせ 土木課 (☎3260)



▲平成12年度は「あそびの広場」を4回開催



子育てについての相談や指導、交流などを行う「子育て支援センター」を平成12年4月に開設し、相談業務や子育てサークル支援活動、また、親子で遊ぶ楽しさを体験し、遊びを通して親同士の交流を深める「あそびの広場」などを開催し、子育てを支援しています。

平成12年4月から12月末までの利用者数は、親子が自由に遊ぶ「センター開放日」に481人、身近な遊びや絵本を紹介する「あそびの紹介」に265人、電話による育児相談が26件ありました。平成12年度は、「あそびの広場」を4回開催し、73人の参加がありました。(事業費は、約45万円)

▶問い合わせ 児童家庭課 (☎5634) または子育て支援センター (☎3715)

7 子育て支援センター運営に要する経費

名称	所在地	電話番号
在宅介護支援センター しんた	片倉町6丁目9-1	☎2221
在宅介護支援センター ゆのかわ	登別温泉町133 (内線550)	☎2165
在宅介護支援センター ふれあい登別	登別東町3丁目1-2	☎0511

これまで、総合福祉センター「しんた21」内に「在宅介護支援センターしんた」を設置し、在宅の要援護者とその介護者からの在宅介護などに関する総合的な相談や関係機関への連絡など、保健・医療・福祉サービスの調整を行ってきました。平成12年度は、介護保険制度の導入や在宅福祉に関する相談件数の急増に対応するため、新たに「在宅介護支援センターゆのかわ」と「在宅介護支援センターふれあい登別」を開設し、相談業務などを行っています。

6 在宅介護支援センター運営に要する経費



施設名称	所在地
登別市役所1階市民コーナー	中央町6丁目11
登別支所1階図書館	黒別町3丁目3
登別支所1階ロビー	登別東町3丁目
登別温泉支所1階ロビー	登別温泉町50-1
市立図書館1階ホール	中央町5丁目21
市民会館1階ホール	黒土町7丁目33
総合福祉センター「しんた21」1階	片倉町6丁目9
クリニックセンター再生	幸町2丁目5

noboribetsu.hokkaido.jp (☎5109, Eメール: info@city)

平成11年度から平成12年度にかけて、市内の公共施設8カ所にインターネット端末(パソコン)を設置し、平成12年10月1日からインターネットを無料で閲覧できるようにしました。

また、同じには、市の公式ホームページを一新し(アドレス: http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp)、行政情報などが検索しやすく見やすいものへと改善しました。(平成12年度の実業費は、約3,150万円)

▶問い合わせ 行政管理課 (☎5109, Eメール: info@city)



▶問い合わせ 企画広報室 (☎1122)

「鬼」にゆかりのある市町村などが一堂に会し、情報交換や交流を深め、観光振興を図る「全国鬼サミット」。

平成12年8月27日(日)、「鬼サミット」発祥の地である登別市で「第7回全国鬼サミット」が開かれ、全国から関係者約100人が参加しました。実行委員会形式で行われた今回のサミットの事業などを支援するため、「鬼サミット」のほりべつ2000実行委員会へ補助金を交付しました。(補助金は、500万円)

⑥(楽) 楽進推代化報電報 (楽) 楽進推代化報電報

④(全) 全明助補事業 (全) 全明助補事業

⑨ クリクルセンター運営管理に要する経費 ⑩ 廃棄物管理型最終処分場運営管理に要する経費 ⑪ 家庭系ごみ有料制実施経費 ⑫ ごみ収集運搬業務の委託料



▲クリクルセンター



▲廃棄物管理型最終処分場

ごみの減量・減容化、資源の有効活用とリサイクルの推進、ダイオキシン類の排出抑制など、「環境にやさしい資源循環型社会」の構築を目指し、平成12年4月1日から本格稼働した「クリクルセンター」と「廃棄物管理型最終処分場」。

平成12年4月から12月末までに収集したごみの総量は15,253tで、平成11年度の同時期と比べると約30%減り、ごみの減量が進められています。

また、平成11年度から家庭系ごみの収集運搬業務を民間企業に委託し、収集時間・曜日の拡大化を図りました。

平成12年4月からは、家庭系ごみの手数料を有料化し、12月末までの収入は約1億2,490万円、ごみ袋やごみ処理券などの製作費として、約1,653万円の支出がありました。(平成12年12月末までのクリクルセンター・廃棄物管理型最終処分場運営管理に要した経費は約3億3,000万円、ごみ収集運搬業務の委託料は約9,165万円)

▶問い合わせ 環境資源課

(クリクルセンター内 ☎ 2958)

⑬ 婦人センター大規模改修事業

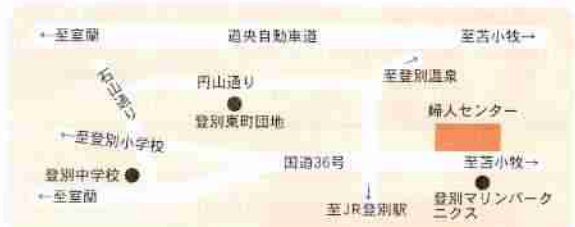
塩害や風雨などで傷んでいた外壁全面の下地活性化と塗装、屋上の防水などを行ったほか、1階・2階・3階ホールのスッシェを取り替え、景観の改善を行いました。内部は、2階講堂と3階軽運動場の老朽化した照明器具の取り替えを行ったほか、2階講堂の音響設備の取り替えを行い、操作しやすい音響調整室に改修しました。

また、ダムウェーター(荷物運搬用のエレベーター)を設置し、利用者が荷物などの運搬を容易に行えるようにしました。今後、2階講堂天井の塗装と内壁クロスの張り替えを行い、3月いっぱいまで完了する予定です。(事業費は、約5,500万円)

▶問い合わせ 建築課 (☎ 4399)



▲婦人センター



⑭ 市民農園開設に要する経費



▲豊作の市民農園

農作業を通し、自然に触れることのできる場として、また、高齢者の生きがいや健康づくりの場として、市民農園を5月15日に開設しました。札内町に開設したこの市民農園には、水道設備や簡易水洗トイレが完備され、40区画(1区画50平方m)が年額1万円です。希望者に開放されました。各区画では、枝豆やナス、カボチャ、春菜、ピーマン、トウモロコシ、キャベツ、白菜、アスパラ、さや豆などが収穫されました。平成13年度も市民農園の利用者を募集します。申込方法などについては、今後の「広報のほりべつ」などをご覧ください。(事業費は、約180万円)

▶問い合わせ 農林水産課 (☎ 2321)

農作業を通し、自然に触れることのできる場として、また、高齢者の生きがいや健康づくりの場として、市民農園を5月15日に開設しました。

札内町に開設したこの市民農園には、水道設備や簡易水洗トイレが完備され、40区画(1区画50平方m)が年額1万円です。希望者に開放されました。各区画では、枝豆やナス、



▼札内高原館



⑮ 札内高原館運営管理に要する経費

地元の農畜産物を加工した新たな地場産品の開発を目指し、乳製品や肉製品(チーズ、アイスクリーム、ソーセージ)などの加工研究を行ったほか、ソーセージのモニター調査などを行いました。(事業費は、約1,500万円)

▶問い合わせ 農林水産課

(☎ 2321)

こう配が急な坂道である美園30号線と片倉13号線のロードヒーティング工事を行い、一部が12月に完成しました。

片倉13号線については平成13年度に、美園30号線については、平成14年度までに完成する予定です。(平成12年度の事業費は、約4,100万円)

▶問い合わせ 土木課 (☎3260)



◀美園30号線



◀片倉13号線

平成10年度から北海道が主体となって行っている中央地区と片倉地区の整備は、平成11年度までに富士橋の架け替え工事や道路の改築工事(一部を除く)が完了し、今年度は、道路の一部とJR幌別駅前広場(約5,000平方m)の整備が行われています。

JR幌別駅前の交通機関の乗り継ぎなどを円滑にするため、バス乗降場2カ所やタクシー乗降場1カ所、駐輪場1カ所(約100台収容)、照明灯設置などの工事が北海道の事業として進められ、まもなく終了する予定です。

市は、景観に配慮した施設整備を図るため、JR幌別駅前広場にモニュメントや案内板、装飾電話ボックスの設置を行っているほか、周辺道路の整備や歩道のカラーブロック化、デザイン照明灯の設置などを行い、まもなく終了する予定です。平成13年度中にJR幌別駅周辺道路の改築、駐輪場の整備を行い、北駅前通りの整備をすべて完了する予定です。

(平成12年度の事業費は、北駅前通整備事業費が約3,700万円、市道改良・歩道新設事業費が約9,400万円)

▶問い合わせ 都市計画課 (☎4115)



▲バス乗降場やタクシー乗降場が整備され、交通機関が利用しやすくなったJR幌別駅前



18 ロードヒーティング整備事業

16 産業フェア2000in登別への補助

地場産業の製品や技術を紹介し、新たなビジネスチャンスの創出と新規成長分野の産業育成を図る「産業フェア2000in登別」が、平成12年9月30日(土)と10月1日(日)の2日間開催され、補助金を交付しました。

同フェアには、市内外の47企業・団体が出展し、工業や情報通信、環境関連などさまざまな分野の独自性あふれる製品や技術などが紹介され、2日間で約16,000人の来場がありました。(補助金は、200万円)

▶問い合わせ 商工労政課

(☎2171)



▲総合体育館を会場に開催された「産業フェア2000in登別」

19 北駅前通りの整備事業

17 カルルス温泉サンライバスキー場の整備

スキー修学旅行の増加や利用形態の変化に対応するため、初級者コース(ホワイトコース)の拡幅整備を行い、昨年11月末に完成しました。(事業費は、約550万円)

▶問い合わせ 観光室 (☎2018)



▲拡幅整備され、初心者が利用しやすくなったカルルス温泉サンライバスキー場の「ホワイトコース」

②まちづくりアクションプラン策定に要する経費

▶多くの市民が参加して「のぼりべつ」の将来のまちづくりを話し合った「市民会議」(写真は、2月8日に開かれた第6回市民会議)



▶豊かで美しい自然を次世代へ残し、安全で快適、便利で住みよいまちをつくる計画「まちづくりアクションプラン」



自然と調和したまち並みや美しい景観、快適な都市空間の創造など、総合計画で描いた将来の「のぼりべつ」を実現するため、市民会議の手法を取り入れ、多くの市民の参画を得ながら「まちづくりアクションプラン」の素案作りを進めています。

本年度は、市民会議を6回開催し、延べ172人の市民が参加しました。

来年度も引き続き市民会議を開催し、平成14年度中に同プランの完成を予定しています。(平成12年度の事業費は、約800万円)

※まちづくりアクションプラン…土地利用や交通施設、公共施設の在り方を盛り込んだ【都市計画マスタープラン】、まち並みや自然景観の形成などの方向性を示した【景観形成基本計画】、緑の保全や緑化推進、公園や広場の整備計画を盛り込んだ【緑の基本計画】の総称

▶問い合わせ 都市計画課 (☎4115)



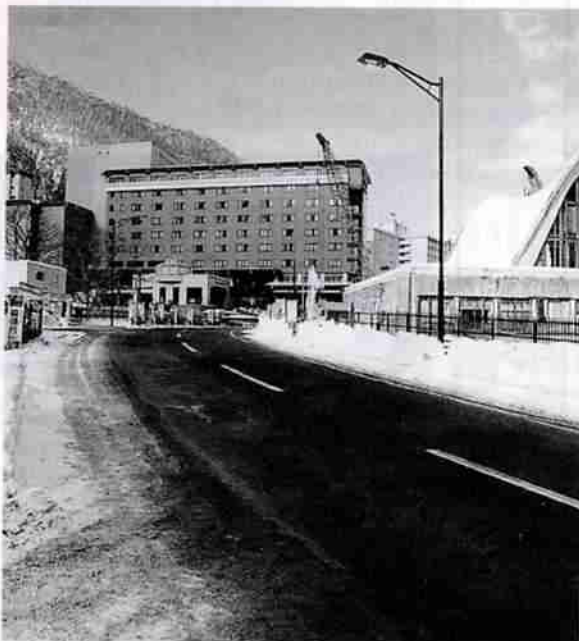
登別温泉市街地を避け、登別厚生年金病院付近からクスリサンベツ川沿いに建設される新ルート「通称・登別温泉バイパス」。

完成時は、幅員10mの車道部とその両側に3.5mの歩道が設置され、全体計画では地獄谷駐車場近くの道道に接続させる予定です。

これまでに、登別厚生年金病院付近からホテルまほろば付近までの延長820mが事業化され、完成は3月いっぱいを予定しています。

今後も、全体計画に沿った事業化を進めていきます。※この事業は北海道の事業です。

▶問い合わせ 管理課 (☎3230)



③登別温泉バイパス(道道倶多楽湖公園線) 整備事業

平成10年11月に、40戸・1棟が完成しました。平成11年度からは、2カ年継続事業として、5階建て45戸・1棟の建設に着手し、平成12年9月中旬に完成しました。(平成11・12年度の事業費は、約10億3,400万円)

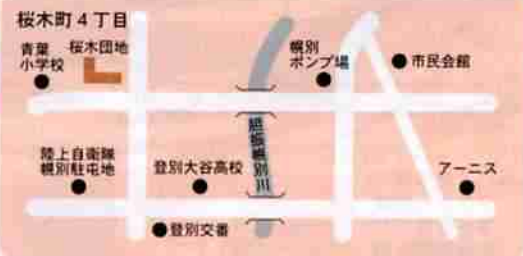
▶問い合わせ 建築課 (☎4399)



▶昨年9月に完成した市営住宅桜木団地7号棟



④市営住宅(桜木団地) 建て替え事業



⑳ 人と自然のふれあい拠点整備事業



鏡山地区の豊かな自然を活用し、市民の潤いの場や自然に親しめる場として、整備が進められている宿泊体験学習施設「ネイチャーセンター」。

本年度は、1月末に実施設計が完成したほか、ネイチャーセンターへの進入道路の設置工事や生態観察学習施設（幌別川魚道）の建設などが進められています。（平成12年度の事業費は、約6,600万円）

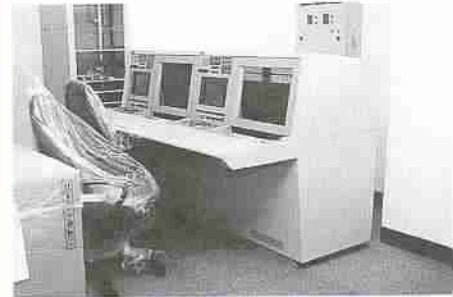
▶問い合わせ 社会教育課 (☎91129)

㉓ 消防緊急通信指令施設整備事業

現在使用している通信指令施設（昭和59年度購入）の老朽化が進み、修理での対応が困難な状況にあるため、通信指令施設を更新し、迅速・正確な消防業務の遂行に努めます。

新しい通信指令施設は3月中に設置完了する予定です。（事業費は、約4,600万円）

▶問い合わせ 消防本部 (☎9611)



公共下水道事業特別会計 ㉔ 公共下水道事業

平成12年度は、栄町や若草町、片倉町地区の整備を引き続き進めるとともに、新たに鶯別町と美園町地区の整備に向けた実施設計に着手しました。

また、若山浄化センターの処理能力を日量10,000立方メートルに増量したほか、若草町や美園町、鶯別地区の供用開始に向けた若草ポンプ場の建設を継続しています。若草ポンプ場の完成は、3月いっぱいを目途に予定しています。

なお、平成12年度末の下水道普及率は、約64.0%に達する予定です。

▶問い合わせ 下水道課 (☎9052)



▶若草ポンプ場

西陵中学校校舎の屋上防水工事や内装・外装工事を行うほか、地震対策として柱や壁、基礎などの補強工事を行っています。（平成11・12年度の事業費は、約6億円）

▶問い合わせ 教育委員会総務課教育施設担当 (☎1091)



㉔ 西陵中学校校舎大規模改修・地震補強事業

介護保険特別会計 ㉕ 保険給付費

平成12年4月に介護保険制度がスタートし、11月末現在で、訪問介護や通所介護、短期入所生活介護などの居宅サービスや、老人保健施設・老人福祉施設・介護療養型医療施設での施設サービスの給付が約10億9,000万円となっています。

また、高額介護サービスや住宅改修、福祉用具購入の給付が約1,400万円となっています。

▶問い合わせ 介護保険室 (☎5720)

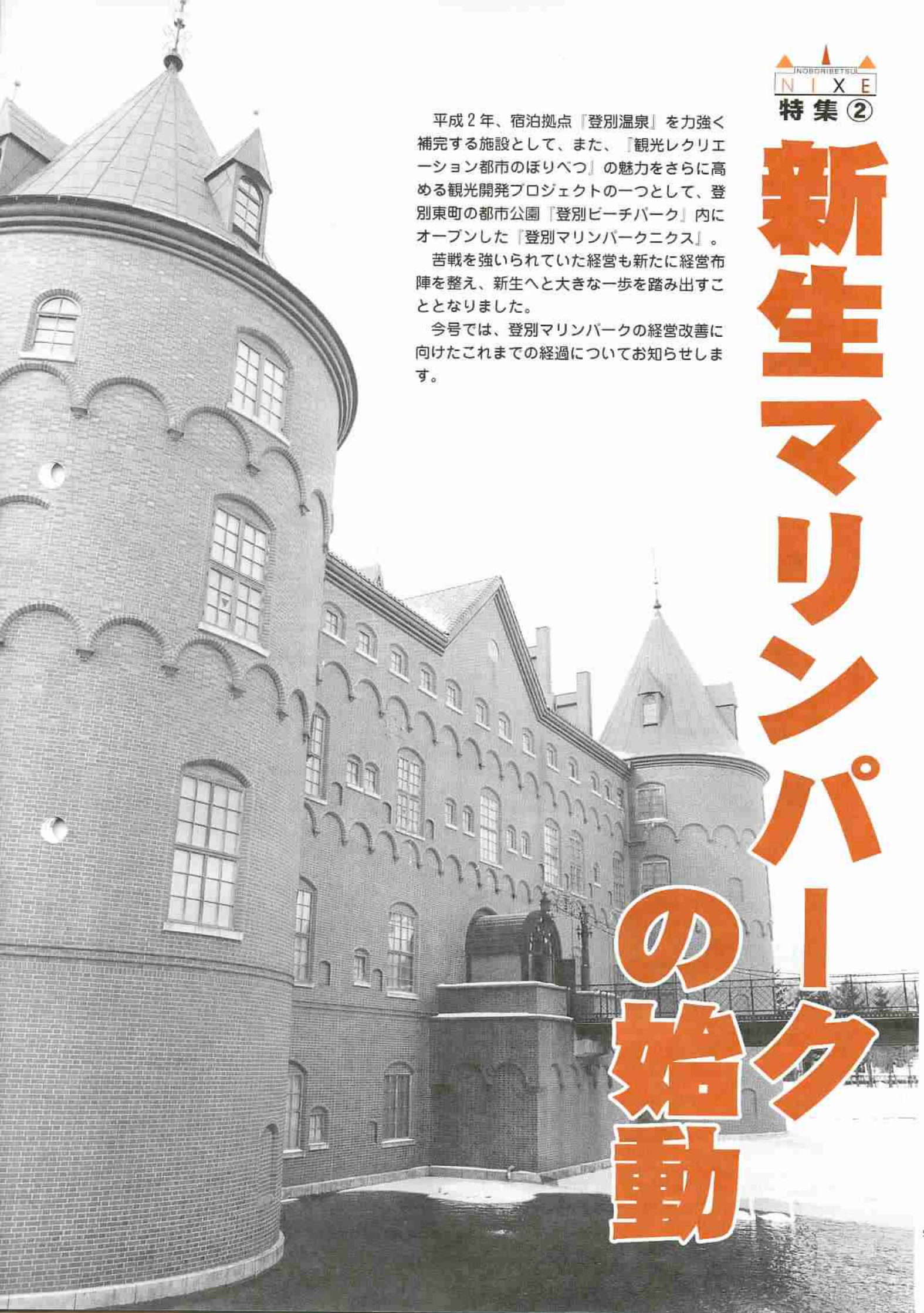
平成2年、宿泊拠点『登別温泉』を力強く補完する施設として、また、『観光レクリエーション都市のほりべつ』の魅力をさらに高める観光開発プロジェクトの一つとして、登別東町の都市公園『登別ビーチパーク』内にオープンした『登別マリンパークニクス』。

苦戦を強いられていた経営も新たに経営布陣を整え、新生へと大きな一歩を踏み出すこととなりました。

今号では、登別マリンパークの経営改善に向けたこれまでの経過についてお知らせします。

新生マリンパーク

の始動



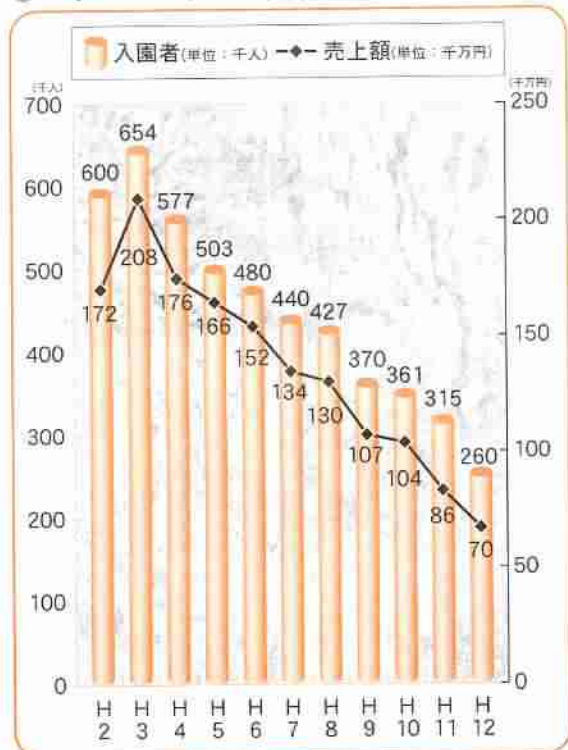


●アクアトンネル
寒流・暖流の二つのトンネルの中では、サケ類・エイ類・サメ類などさまざまな魚が頭上を回遊。まるで海底を散歩しているような神秘的な世界が眼前に広がります。



●ニクス城
ニクス城は、デンマークに実在する美しい水上城郭「イーエスコー城」をモデルに作られました。城内では、生命誕生の源「海」をテーマに、ドラマチックな世界を演出しています。

●マリノパークの入園者数と売上額の推移



※平成2年度は7月20日から平成3年3月31日まで。平成12年度は、見込みデータ

平成2年7月20日、北歐ロマンと海洋ファンタジーをテーマとする市民待望の登別マリノパークがオープンしました。
オープン当日には、デンマーク・フン島からミッドフュンズ高校合唱団が駆け付け、お祝いの歌声を披露したほか、JR登別駅前からのパレードや地元「マリノパーク歓迎期成会」によるイベントが開催されるなど、市民の期待の大きさが伺われました。
また、「温泉観光地・登別」に誕生した海洋性のアミューズメント施設を一目見ようと、道内はもとより全国から観光客が訪れました。

登別観光の一翼を担う『登別マリノパークニクス』

開園半年間の入園者は約52万4千人。平成3年度の年間入園者数は、約65万4千人を数え、ピーク時には一日1万人を超える入園者が訪れるなど、北海道を代表するテーマパークとなりました。
登別マリノパークの経営にあたったのは、昭和63年に設立された「株式会社北海道マリノパーク」。
清水不動産株式会社（清水建設株式会社の子会社）と登別市が中心となり、市内の民間企業など4社が出資し、第三セクター（資本金5億円）として発足しました。
開園半年間の入園者は約52万4千人。平成3年度の年間入園者数は、約65万4千人を数え、ピーク時には一日1万人を超える入園者が訪れるなど、北海道を代表するテーマパークとなりました。

長引く不況と入園者数の減少。経営改善に向けた取り組み

オープン当初の好調な入り込みも、バブル崩壊後の不況の影響や観光地間の競争の激化などを受け、全国のテーマパーク同様苦戦を強いられる状況が訪れました。
マリノパークでは、新たに「オーロラショー」の演出や遊園地「ニクスランド」の開設、大観覧車の導入を図るなど、更なる魅力づくりに取り組みましたが、平成8年度の入園者は約42万7千人、約28億8千万円の累積赤字を余儀なくされました。
平成8年、観光登別の玄関口に位置するマリノパークの危機に対処するため、市と北海道マリノパークは関連機関の理解を得て、経営体制の立て直しを図ることにしました。
このときの経営改善策は、筆頭株主である清水不動産が累積赤字を処理するため、26億4千万円の追加出資をするとともに、持ち株を減資して市へ譲渡することでした。
この経営改善によって、筆頭株主は清水不動産から登別市になりました。

経営支援と誘客宣伝
経営に長じた新たな
民間パートナーの協力

筆頭株主となった市は、誘客宣伝活動の支援や公園使用料の減免、借入金繰り延べに関する関係者への要請などに加え、新たに建設を計画していたベンギン館の建設費や運転資金の確保などの支援を行いました。
しかしながら、平成11年度の年間入園者数は、約31万5千人にとどまり、平成12年には、有珠山噴火の影響などにより、4月から7月までの入園者数が前年と比べて約7割と大きく落ち込みました。
年度末の入園者数は、約26万人となることが予想され、抜本的な経営改善が求められました。
市は、筆頭株主となって以来、経営に長じた新たなパートナー探しを行うとともに、清水不動産と協議しながら経営改善の条件整備に努めてきました。抜本的な経営改善の取り組みは、清水不動産の持つ債権が市に無償譲渡されることを基本とし、新たなパートナーについては、のぼりべつクマ牧場をはじめ、ルスツリゾートやロビンバイン・コアラ・サンクチュアリーなど、世界的に観光事業を展開する加森観光株式会社の協力を得られることとなり、経営を



▲ニクス城のモデルとなったイーエスコー城

●アクアギャラリー

水族館のイメージを超えて、美術館で絵画を眺めるように魚たちを鑑賞。極彩色にきらめく魚たちは大自然が生み出した芸術作品。



●ショープール

パレンツ館とドルフィン館では、お茶目で楽しいアシカのショーや豪快なイルカのショーを見ることができます。マリンパークならではの演出をお楽しみください。



マリンパーク再生のために必要とされた七つの条件整備

経営改善の枠組みは、市、清水不動産、加森観光、北海道マリンパークと関係株主が負担を分かち合う新しい手法として、全国的に注目されています。

新たな布陣にゆだね、市は登別マリンパークの経営参画から退くこととなりました。

●経営改善に向けた枠組み

①清水不動産は、マリンパークの貸付金残高と利息にかかる債権約27億円を無償で市へ譲渡する。市は、譲渡された債権を北海道マリンパークの経営状況に応じて適宜、債

権放棄の処理を行う。

②市は、北海道マリンパークの建物と付帯施設を約8億円で買い取り、これを無償で北海道マリンパークへ貸し付ける。建物と付帯施設の維持補修は北海道マリンパークが行う。

③北海道マリンパークは、株主の協力を得て、累積損失処理のため、資本金4億円を2億円に減資するとともに、市と加森観光が提供する資金で債務を解消し、資産にかかる抵当権を抹消する。

④市は、持ち株を無償譲渡し、加森観光は、北海道マリンパークの筆頭株主となり、経営資金の確保に努める。

⑤北海道マリンパークの現役員は、全員辞職し、新役員は筆頭株主と

これで納得
気になる用語

- テーマパーク…催し物や展示物を主題のもとに統一して構成した遊園地。1983年の東京ディズニーランドの開園以来、注目を浴びるようになった言葉。
- ニクス (NIXE) …ニクスとは、古代ゲルマン神話に登場する美しい水の妖精の名。その姿は水に濡れたようにしっとりした髪をしており、美しい歌声に惑わされた船が出たという『ローレイ』のような妖精とも言われています。
- 第三セクター…国や地方公共団体と民間企業との共同出資で設立される事業体。主として国や地方公共団体が行うべき事業（公共セクター）に、民間部門（民間セクター）の資金や経営力などを導入して官民共同で行うところから第三セクターと言われています。

なる加森観光が選考にあたる。監査役ポストの一つは、市が確保する。

⑥北海道マリンパークは、社員を継続して雇用する。

⑦北海道マリンパークは、テナントとの契約を継続する。

●債務と関係経費の負担方法

◎平成13年1月末現在の債務などの総額：40億2千900万円（清水不動産借入金残高26億9千万円、銀行借入金残高10億100万円など）

▼負担方法

・清水不動産が債権を市へ無償譲渡する方法で、26億9千万円

・市がマリンパークの施設を買い取る方法で、7億9千400万円

・市が平成10年度から12年度までの公園使用料を放棄する方法で、3千500万円

・加森観光が10年間で5億円出資するとともに、北海道マリンパーク



▲約498万人の観光客らが訪れた『登録マリンパーク』

が負担する方法などで、5億1千万円

◎経営改善にかかる関係経費…1億

7千700万円（平成13年度固定資産税相当額約3千700万円、消費税相当額約4千万円、土地建物買収費

5千万円、買収要請株買取費用5千万円）

▼負担方法



●北欧の街並み

アンデルセンの生まれ故郷であるデンマーク・オーデンセ市や北欧の美しい街並みを再現したアンデルセンストリートとスカンジナビアストリート。



●ペンギンパレード

ヨチヨチ歩きがとってもかわいいたちのペンギンたちの大行進。そのユーモラスで愛らしい姿は子どもたちはもちろん、入場者の人気を集めています。

モニーにデンマーク・ウイスリンゲ市近郊のイーエスコー城主夫妻をはじめ、リンゲ市のミッドフエンズ高校合唱団総勢52人が来登。これをきっかけに、リンゲ市のノーエア小学校と幌別中学校が姉妹提携を結び

●デンマークとの国際交流

平成2年のオープン以来、約19万人の観光客が入園し、登別の観光産業の振興に貢献してきたマリnpark。マリnparkがきっかけとなり、登別にはさまざまな交流や文化が生まれ、新たなまちづくりが進められてきました。

観光産業の振興と文化の育成、まちづくりの推進に寄与したマリnpark

市は、1月23日(火)に開かれた平成13年第1回登別市議会臨時会以上の内容を報告するとともに、2月7日(水)に開かれた第2回登別市議会臨時会に、マリnparkの施設の取得や無償貸与などの関連議案を上げ、同日、原案通り議決されました。

- ・市が7千700万円
- ・加森観光が1億円
- 累積欠損金：2億6千300万円
- ▼負担方法
- ・減資による累積欠損金の処理で2億円
- ・今後の経営努力による累積欠損金の処理で6千300万円

ました。
平成4年には、市の中学生海外派遣事業がスタートし、リンゲ市とウイスリンゲ市を訪問。同事業は本年度で3回目を迎え、これまでに中学生63人を派遣しました。

また、「のぼりべつ国際交流会」によるデンマークとの市民交流が平成6年から始まり、平成8年には「登別デンマーク協会」が発足。市民によるデンマークとの交流が活発に進められています。



▲子どもたちがイルカに触れたり、一緒に遊んだりした『イルカ博士講座』

●子どもたちの学びの場

市は、平成8年度からマリnparkの協力を得て、海の生き物の生態や飼育を通して、命の尊重や思いやりの気持ちを養うことを目的にさまざまな講座を行ってきました。

平成9年には、「おさかなさん博士講座」を、平成10年と11年には「イルカ博士講座」、平成12年には「アシカ博士講座」を開催し、延べ168人の小学生が参加しました。

平成9年には、「おさかなさん博士講座」を、平成10年と11年には「イルカ博士講座」、平成12年には「アシカ博士講座」を開催し、延べ168人の小学生が参加しました。

市は、平成8年度からマリnparkの協力を得て、海の生き物の生態や飼育を通して、命の尊重や思いやりの気持ちを養うことを目的にさまざまな講座を行ってきました。

●登別東町の景観形成

JR登別駅前通りからマリnparkに通じる市道(延長約180m・登別東町1丁目)を歩行者が安全かつ快適に利用できるような道路として改良し、マリnparkの門前町としてふさわしい街並み景観づくりを行いました。

道路の幅員を9.5mから11.5mに拡幅し、車道は4.5mの1車線一方通行にするとともに、曲線ルートにしてスピード緩和を図りました。車道の両側には幅員2.5mから4.5mの変則的な歩道を設け、車道・歩道ともにカラーブロック舗装を行い、80基のフラワーポットや、北欧風の色・デザインで統一した8基の街灯、ベンチを設置しました。

また、道路の愛称を市民から募集し、「メルヘン・ストリート」が選ばれました。

また、「メルヘン・ストリート」が選ばれました。

「フラワーパレットのほりべつ」マリnparkの前庭を会場に行われる「フラワーパレットのほりべつ」は、花を育てる心を育てようと、登別まちづくり促進期成会が中心となり、登別地区の各団体などと協力して平成3年から行っているもので、本年度で10回目を迎えました。

「特色ある手作りの成人祭」20歳を迎え、成人になった喜びを友人たちと分かち合い、大人としての自覚と責任を認識する「成人式」。登別の成人式は、平成5年からその会場をこれまでの市民会館からマリnparkなどへ移し、若者たちが

登別を語るとき、欠かすことのない存在となったマリnpark。その果たしてきた役割は観光地としての魅力づくりにとどまらず、若者の雇用の場や市内事業者へのビジネスチャンス創出、約7億円にも上る税金など(平成3年度からの法人市民税や市道民税(特別徴収)、固定資産税・都市計画税の納税額は、約3億8千300万円。平成元年度からの公園使用料は、約3億1千400万円)、市の財政にも大きく貢献してきました。

今年度の成人祭は、マリnparkのドルフィン館で行われ、50人が出席しました。

今年度の成人祭は、マリnparkのドルフィン館で行われ、50人が出席しました。



▲マリnparkでの成人式



市民のみなさんが 楽しむことのできる マリパークを。

遊園地や動物園、水族館は、私の天職とも思える仕事

昭和32年に私の父が「のぼりべつクマ牧場」でおなじみの「登別温泉ケール株式会社」の営業を開始し、以来44年間、「のぼりべつ」でお世話になつてきました。

「登別マリパーク」が苦境に立つ



▲毎年、多くの観光客が訪れる「のぼりべつクマ牧場」

ているという話は聞いていましたので、お役に立てるならと思ひ、このたびマリパークの経営に参加しました。

もともと私は、多くの人に楽しんでもらえる仕事をしたかと思つていたんです。その中でも遊園地や動物園、水族館は私にとって天職と思える仕事。特に動物園に関しては、加森観光の発祥の地である「クマ牧場」をはじめ、オーストラリアで一番大きなコアラの公園「ローンバイン・コアラ・サンクチュアリー」など、動物にかかわる仕事をさせていたれています。

遊園地に関しては、ルスツリゾートで遊園地を作り上げてきました。水族館は以前からやってみたく思っていましたので、市からの話は、まさに天の声かなと感じました。

これからのマリパークは、見るだけの水族館ではなく、触れ・学び・楽しめる場所に

いろいろな国を旅行してきましたが、立ち寄った土地の遊園地や動物園、水族館は必ず見に行きました。これが楽

しみの一つなんです。経営者として見るのではなく、観客の視点から見ると、私が経営する遊園地や動物園、水族館はお客さまが楽しめる施設でなければいけない。それが大切なことなんです。

これからの水族館に求められるものは、与えられたものをただ「見る」のではなく、体験して学ぶものがあつたり、魚たちと触れ合う「いやし」があつたり、動物と一緒に遊んだり、楽しいと思える部分が必要です。そういう部分を付加していかないとリビータの確保はできないと思いますし、なにより地元の人に来ていただけません。

これからのマリパークは、「テーマパーク」というよりも「水」と「動物」と「人間」の触れ合いという大きなところで「人」で展開していきたいと思つています。施設の中だけにとらわれず、登別の海や港、フンベ山など、この恵まれた環境も有効に活用していきたいですね。

例えば、野生のカモメが人圍者の笛を聞いて集まってくるといったような自然を取り込んだ楽しさがあれば面白いものになると思ひます。クジラやイルカウオッチングなどもいいですね。

市や加森観光、清水不動産、北海道マリパークが、それぞれ負担をすることで最善の結果を

これから新たなマリパークをスタートさせるわけですが、私どもに任せられた以上、確実に成功させなければならぬ。難産ともいえる状況かも知れませんが、マリパークを生かして

くためにはこれを超えるなければ強い「子」には育たない。

市は8億もの税金を無駄遣いしたのではないかというをよく聞きますが、決してそうではないと思ひます。

市は、この施設を買い取り、市の財産として残したわけですから、決して税金の無駄遣いをしたわけではない。37億円のマリパークという施設を8億で買ったのですから、市は大変良い買い物をしたのではないのでしょうか。

もし、市がこの施設を買い取らなかつたら、マリパークの経営に参加しなかつたでしょうね。

なせなら、初期投資には税金などをはじめ、多額の資金が必要となりますので、運営前は8億もの出費がある。マリパークの活性化ができない。私どもの資金にも限界があります。初期投資をできるだけ抑えて、リニューアルなどに資金を運用していきたい。過大投資をして成功させる自信はないのですから。

もちろん、私どももまったくお金を使わずにマリパークの経営に参加するわけではありませぬ。

これまでも、さまざまな形で資金を投入してきました。それぞれが負担を分け合うことで今回のことが成立したんです。

函館にも水族館ができると聞いています。そういうことも踏まえて戦つていかなければなりません。

だからこそ、初期投資を抑えたかっただけです。函館に負けるわけにはいきませんから。



特集②

新生マリパークの始動



加森公人さん

加森観光株式会社
代表取締役社長

市の賢明な決断が無ければ、計り知れないダメージを受けていた「のぼりべつ」のイメージ

マリパークの改善には、これまで私どもが培ってきたノウハウを十分に生かしていくつもりです。マリパークを成功させることは「のぼりべつ」のイメージアップにもつながります。

もし、マリパークが閉園という最悪の結末を迎えていたら、「のぼりべつ」にとって計り知れないダメージになっていたと思います。天華園が閉園し、マリパークも閉園したとなると

「『のぼりべつ』はそんなつまらないところなのか、企業も育たないところなのか」と思われ、新たな企業も進出しなくなります。外から見た「のぼりべつ」に対するイメージダウンは相当なものになったでしょう。

このマリパークはとても良い立地条件にあるんですよ。それは、国道に面していたり、駅前にあるからということだけではなく、北海道最大のマーケットである札幌の南にあるということとです。人間というのは、遊びに行くとき、太陽に向かって行くんですよ。札幌のお客さまを引き付けようとするなら、札幌から見て南にある必要がある

●昭和18年札幌市生まれ。57歳。北海道のレジャーをリードする加森観光株式会社の基礎を築いた故・加森勝雄さんを父に持つ。加森観光をはじめ、登別温泉ケーブル株式会社、ローンパイン・コアラ・サンクチュアリーなどの社長職、在札幌チリ共和国名誉領事など、多くの要職に就き、多忙な日々を送る。企業家としての企画力・実行力・決断力には定評があり、内外からの評価も高い。

●加森観光株式会社

留寿都村のスキー場（現・ルスツリゾート）を買収した登別温泉ケーブル株式会社が昭和56年9月、同スキー場の経営を目的に出資して設立。その後、観光事業に本格的に進出し、現在は旭川市やニセコ町、喜茂別町、札幌市などでプールや温泉ホテル、ゴルフ場などを多角的に経営する。このほかにもトナム・サホロリゾートの運営や札幌市にわんにゃんペットパークを開設したほか、不動産賃貸業、リゾート施設経営にかかわる関連会社もある。資本金は8億円。代表取締役社長は加森公人さん。本社は札幌市中央区。

ります。この立地条件だけで、ここは素晴らしいと思います。

マリパークは、登別市民の大切な財産。みなさんの応援がマリパークを成功に導く

水族館には、ファミリーも大切ですが、これからはマリパークの夜の顔を変えて、アベックを対象にしたデートスポットとしても演出をしていきたいと考えています。地元の人が気軽にマリパークにデートに行こうと思える演出です。

マリパークの入場料は高いとよく

言われませんが、入園者が高いと感じるのはどんなときでしょう。

例えば、時給1千円の人が1時間楽しむことができたのなら、その人は高いと思わない。人間というのは不思議なもので、無意識にそういう計算をしているんですよ。マリパークは入場料2千300円ですから、約2時間をマリパークで楽しめたなら、納得してもらえないのではないかと思います。これから、さまざまな調査をしていきますが、そういう意味でマリパークを価格に見合ったものにしていきたいと思っています。

今後は、地域の人たちとも密接な関係を築いていきたいですね。漁業協同組合の方にご協力をお願いして、子どもたちを漁船に体験搭乗させていたかどうか、日ごろ食べている魚がどのようになっているのか、実際に漁師さんから苦労話などをお聞きしたりとか、そういうことを知ってもらうのも、水族館の役割です。

マリパークの成功は、地域の方の協力無しに実現できません。

マリパークをお引き受けするとき、2年前に他界した父の墓前に報告してきました。今回のことは、父が一番喜んでくれていると思います。「また『のぼりべつ』で頑張るのか」と。「のぼりべつ」は、私の事業の発祥の地です。思い入れは強いですよ。

市民のみなさん、マリパークをぜひ応援してください。

マリパークは、市民のみなさんの大切な財産なのですから。



第12回のほりべつ市民大学

1月26日(金)、市民会館で「第12回のほりべつ市民大学」が開かれました。

この『のほりべつ市民大学』は、市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会が、道内の大学などから講師を招き、『鬼』『雪』『温泉と健康』『自然』『海』など登別になじみの深いテーマで、昨年1月から1年を通じ市内9カ所をキャンパスに開催していたものです。

最終回のこの日は、登別高校と登別大谷高校の生徒が司会や進行などを担当。登別出身のプロレスラー足立知也さんが「夢を斬す」をテーマに講演しました。

足立さんは、入門当時の厳しい練習や練習生時代にティッシュペーパーにしようゆをかけて食べ空腹をしのいだことなどのエピソードを披露。最後に「苦しいときやくじけそうなどときには、ふるさと登別で行った旗揚げ興行での大きな声援を思い出し、自分を奮い立たせている。将来、ぼくの所属する団体を大きくして、登別に北海道道場をつくり、登別の若者たちの夢が大きく育つような元気や勇気を分け与えたい」と足立さんの夢を熱く語りました。



◀足立さんを講師に迎えて行われた「第12回のほりべつ市民大学」

夢を大きく育てよう

自分でつくる料理は最高

～男性のための料理教室～

男の人にも、料理に対する理解と関心をもってもらうと、登別市食生活改善推進員協議会主催の『男性のための料理教室』が2月2日(金)、登別公民館で開催され、生活習慣病の予防を意識した簡単に体に良い料理づくりを行いました。

参加者が挑戦したメニューは、ちりめんじゃこや桜えびを使った三色すし、野菜をふんだんに使った鳥肉の甘酢あんなど4品。料理教室に参加した橋本厚志さん(新川町)は、「料理に関心がなく、作ったことはありませんでした。妻の手伝いができるようになればと思い参加しましたが、切り方ひとつ分からないので冷や汗をかきながらやっています」と、使い慣れない包丁を手がにがんばっていました。



一文字、一文字が躍動!

～第31回登別小中学生書初め展～

1月27日(土)から29日(月)までの3日間、登別書道連盟などの主催による「第31回登別小中学生書初め展」が登別中央ショッピングセンター・アーニスで開かれ、躍動感あふれる書が訪れた市民の日を楽しませました。

同展は昭和45年から毎年開催されているもので、今回は昨年より30点ほど多い163点が展示されました。

28日(日)に行われた表彰式では、入賞した小・中学生56人が表彰され、作品『歴史』で最高賞の登別書道連盟賞に輝いた樋山桂子さん(登別中学校1年)は、「スピード感と切れ味を大切に書きました」と笑顔で話してくれました。



市内4地区で鬼の豆まき隊が出陣

～鬼まつり～

2月3日(土)、登別商工会議所青年部や地元商店街などが主体となった実行委員会主催の『鬼まつり』が、市内の4地区で同時開催されました。

各地区とも、午前中は鬼のふん装をした豆まき隊が幼稚園、保育所などを訪問、午後からは各地区のメイン会場でいろいろな取り組みが行われ、幌別地区のらっぱ公園では、子どもたちの餅つきや鬼とのジャンケンゲーム、お汁粉のサービスなどが行われました。

また、夕方からは、商店街や飲食店街に豆まき隊が出掛け厄払いとともに商売繁盛を願いました。





ギターの心地よい調べに うっとり

～クリンクルセンター新春コンサート・クラシックギター演奏会～

1月20日(土)、幸町のクリンクルセンター内の市民ギャラリーで『クリンクルセンター新春コンサート・クラシックギター演奏会』が登別商工会議所青年部の主催で開催され、約200人がギター演奏を楽しみました。

ギター奏者は、日本スペインギターコンクール第2位、ベレース・マラガ国際コンクール第2位の輝かしい実績を持ち、現在、北九州市を中心に活躍している池田慎司さん。ワルツやソナタなどのほか「鉄道員」「アルハンブラの思い出」など、なじみの曲をまじえた2時間にわたるギターの心地よい調べに、来場者はうっとり聞き入っていました。



伝統的遊戯を楽しみました

～第18回登子連かるた大会～

1月28日(日)、登別市子ども会育成連絡協議会の主催による「第18回登子連かるた大会」が市民会館で開催されました。

この大会は、子どもたちに伝統的遊戯・百人一首を通じて仲間意識を深めてもらおうと、毎年1月に開かれているもので、今年の大会には市内各地区の子ども会を代表する14チーム・42人が参加しました。

この大会の優勝チームは胆振地域子ども会育成連絡協議会が主催する「胆振地域子ども会カルタ大会」に出場できることもあり、子どもたちは目を輝かし、ほほを赤らめながら、真剣に札を追っていました。



湯気も凍てつく厳寒の湯まつり

～第30回登別温泉湯まつり～

2月3日(土)と4日(日)の2日間、登別温泉などを会場に、「第30回登別温泉湯まつり」が開催されました。

この湯まつりは、節分にちなみ、登別温泉の豊富な湯量と効能に感謝し、開運と無病息災を祈る祭りで、閻魔大王の使者である赤鬼・青鬼の「湯鬼神」たちが、登別温泉やカルルス温泉の旅館・ホテルを訪問。湯鬼神神楽を披露しながら厄払いをしました。

また、登別パラダイス前のまつり広場では、郷土芸能「子宝もちつき舞い」をはじめ、豆まきや湯の華もち、甘酒などのサービスが行われたほか、最終日には、祭りのフィナーレを飾る「源泉湯かけ合戦」が行われました。立春とは名ばかりの厳しい冷え込みの中、下帯姿の威勢のいい若者たちが、勇ましい掛け声とともに豪快に湯を掛け合う様子を、大勢の観光客などが寒さに震えながら見物していました。

広報写真の部で2年連続 入賞

～第47回北海道広報コンクール～

北海道広報コンクールで入選した一枚写真。写真は平成12年7月1日号の「広報のほりべつ」の表紙に使用。同コンクール一枚写真の入選は、平成9年の入選、11年の特選に続き3回目。



(出)北海道広報協会や北海道などが主催する「第47回(平成12年)北海道広報コンクール」の「広報写真・一枚写真の部」で、平成12年7月1日号の「広報のほりべつ」の表紙を飾った写真が入賞しました。

この「広報写真・一枚写真の部」は、毎年、全道の市町村から多くの作品が寄せられ、構図や表情、情感などさまざまな観点から写真の優劣を競うもので、今回は、5月27日(土)に行われたふれあい農園で、泥だらけになりながら田植えを楽しんでいる女の子の姿をとらえた作品が、参加作品85点の中から選ばれ、2年連続の入賞となりました。



▲昨年3月に開催された『登別アイヌ文化祭』（北海道ウタリ協会 登別支部・知里真志保を語る会共催）では、知里幸恵が書き残した『アイヌ神謡集』のアイヌ語劇などが披露された。

市民リポーター
佐々木 匠さん



●ささき たくみ
新川町在住。17歳。
札幌市出身。幌別西小学校、西陵中学校を経て、現在、室蘭栄高校2年生。好きな授業は歴史。

学び、伝えよう 登別のアイヌ文化

アイヌ文化を伝承する市民活動

私たちのまち登別にはアイヌ語に由来する地名が数多くあり、この地からアイヌ民族にかかわる民俗学や語学、文学などの分野で功績を残した著名な人物が数多く生まれました。

アイヌ文化にゆかりの深いこの登別で、アイヌ文化を受け継ぎ、育て、未来へと伝えようと活動しているみなさんの思いをレポートしました。

いま、私たちのまちの アイヌ文化は？

私は小学生のころ、社会科で登別市について学習し、その中でアイヌ民族について知りました。

また、学芸会では知里幸恵が書き残した『アイヌ神謡集』の文章をアイヌ語で暗唱したり、見学旅行で白老のホロトコタンに行ったりと、アイヌ文化に触れる機会が何かと多かった気がします。

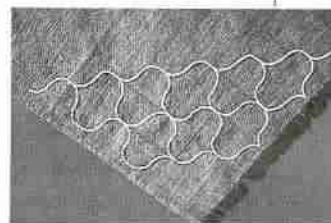
しかし、中学校、高校に進むにつれ、アイヌ文化について学ぶ機会はほとんどなくなっていました。

いま、登別ではどのようなアイヌ文化の伝承活動が行われているのでしょうか。

失われていた時間を 取り戻すことの難しさ

『北海道ウタリ協会登別支部』の支部長など、アイヌ文化に関係する団体の要職を務める上武やす子さんを訪ね、アイヌ文化を伝える市民の活動などについてお聞きしました。

「アイヌ民族の葬儀の模様を撮ったたった1枚の写真。そこに写っていた衣装をもとに、登別に伝わるアイヌ民族衣装をようやく復元することができ



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。



上武やす子さん

ました。長い間失われていた時間を取り戻すことは、とても難しいことです。

いま、「北海道ウタリ協会登別支部」や「知里真志保を語る会」などの団体では、アイヌ文化を伝承し、広く市民のみなさんにアイヌ文化を理解していただくとうと、毎年、講演会や展示会などを開いています。ぜひ、たくさんのみなさんに参加してほしいですね」と上武さんは話してくれました。

上武さんは、現在、ほとんど資料のなかった登別地域のアイヌ民族衣装や刺しゅう、編み物などの制作方法を学ぶとともに、アイヌ刺繍教室『ピリカノカの会』では講師を務めています。

「伝統文化の伝承とともに大切なことは、その時代の暮らしにあった形で



▲『アイヌ神謡集』を書いた知里幸恵（上）とアイヌ民族の言語や神話、伝説などを研究し、多くの業績を残した知里真志保（下）の姉弟。

▼昨年9月に開催された『知里幸恵の世界・展』（知里森舎主催）では、知里幸恵直筆の日記や手紙、絵などが展示された。



▲毎年秋、登別川河口で催される、川の神に感謝し、豊漁を祈る祭儀『ベツ・カムイノミ』（北海道ウタリ協会登別支部主催）。

「知里幸恵の年譜をたどると、没後に彼女の人生や業績に関わる書籍が出版されなど、生前よりも没後の時代の方がはるかに長いのです。文字をもたない言葉だけの文化だったアイヌ語を初めてローマ字で表記し、美しい日本語訳を付けた偉業とともに、祖先の残してくれたユカラの研究に生涯をささげた人生が、今でも人々の心に感動を



横山むつみさん

昨年9月、登別サテイで開催された「知里幸恵の世界・展」は、約30人もの方が訪れるなど、好評でした。同展を主催した「知里森舎」代表で、『アイヌ神謡集』を書き残し、19歳の若さで亡くなった知里幸恵のめい、横山むつみさんに話をお聞きしました。

知里幸恵の思いを橋渡しとして

その文化を息づかせること。いま、『ベリカノカの会』では、アイヌ民族に伝わる刺しゅうや編み物の技術を用いて、自由な発想で現代の暮らしにあったデザインの商品もつくっています」と上武さんは、アイヌ文化を大切に保存しながら、工夫して現代、そして未来へと継承しようとしているサークルの活動も紹介してくれました。

「アイヌ民族は自然のすべてを神として尊敬し、衣・食・住にいたるまで、神が宿していると考えていました。自然を大切にしているアイヌ民族の精神文化を私たちが学ぶことは、大切なことだと思いますよ。それに登別には、とて



宮武 紳一さん

最後に登別郷土文化研究会の会長で、アイヌ文化に詳しい宮武紳一さんを訪ねました。

アイヌ民族の精神文化を学ぶこと

再来年は知里幸恵の生誕100周年。幸恵さんの思いは今もなお生き続けていると思います。

「アイヌ神謡集」は、アイヌ民族の心を伝えるようとした幸恵の思いを橋渡しとして、これからも私たちに自然と共生していくためのメッセージを送り続けてくれるのではないのでしょうか」と横山さんは話してくれました。

「アイヌ文化は自然の恵みに感謝する心を忘れてはいけません。アイヌ文化を抜きには語れないことを学ぶとともに、アイヌ文化を大切に伝えていこうと努力されているたくさんの方を知ることができました。私たちは、めまぐるしいスピードで技術革新が行われる社会に暮らし、そこから多くの利便性を享受してきました。しかし、その一方で多くの大切な自然をなくしてしまいました。私たちは、自然の恵みに感謝する心を忘れてしまったのでしようか。環境問題が毎日のようにマスコミで取り上げられる昨今、自然を大切にしたい生活のあり方が模索されています。自然を大切に、自然と共に生きてきたアイヌ民族。いま、私たちは、その心から、多くのことを学ぶことができるのではないのでしょうか。」

も多くのアイヌ語の地名があり、知里幸恵や知里真志保など、登別が生んだ偉大な人々たちによって、アイヌ民族の神謡や歌謡、呪文、伝承なども残されています。これは、私たちのまち登別が、全国に誇り得ることだと思えます。私たちは、ふるさと登別を愛し、先人の努力によってこの登別の地に残されたアイヌ文化と民族の心を、学び、そして大切にして、未来へと伝えていきたいですね」と宮武さんは、登別のアイヌ文化への思いなどを話してくれました。

今回の取材を通して、登別の文化はアイヌ文化を抜きには語れないことを学ぶとともに、アイヌ文化を大切に伝えていこうと努力されているたくさんの方を知ることができました。私たちは、めまぐるしいスピードで技術革新が行われる社会に暮らし、そこから多くの利便性を享受してきました。しかし、その一方で多くの大切な自然をなくしてしまいました。私たちは、自然の恵みに感謝する心を忘れてしまったのでしようか。環境問題が毎日のようにマスコミで取り上げられる昨今、自然を大切にしたい生活のあり方が模索されています。自然を大切に、自然と共に生きてきたアイヌ民族。いま、私たちは、その心から、多くのことを学ぶことができるのではないのでしょうか。」

忘れてはいけません。アイヌ文化を抜きには語れないことを学ぶとともに、アイヌ文化を大切に伝えていこうと努力されているたくさんの方を知ることができました。私たちは、めまぐるしいスピードで技術革新が行われる社会に暮らし、そこから多くの利便性を享受してきました。しかし、その一方で多くの大切な自然をなくしてしまいました。私たちは、自然の恵みに感謝する心を忘れてしまったのでしようか。環境問題が毎日のようにマスコミで取り上げられる昨今、自然を大切にしたい生活のあり方が模索されています。自然を大切に、自然と共に生きてきたアイヌ民族。いま、私たちは、その心から、多くのことを学ぶことができるのではないのでしょうか。」

も多くのアイヌ語の地名があり、知里幸恵や知里真志保など、登別が生んだ偉大な人々たちによって、アイヌ民族の神謡や歌謡、呪文、伝承なども残されています。これは、私たちのまち登別が、全国に誇り得ることだと思えます。私たちは、ふるさと登別を愛し、先人の努力によってこの登別の地に残されたアイヌ文化と民族の心を、学び、そして大切にして、未来へと伝えていきたいですね」と宮武さんは、登別のアイヌ文化への思いなどを話してくれました。

元気

宅記帳



今月のアドバイザー

小栗麻里 保健婦

あなたは、口ごろから心の健康に気をつけていますか。

「病は気から」といわれるほど心と体の健康は密接な関係があり、心の健康を損なうと、いろいろな病気にかかりやすくなってしまいます。

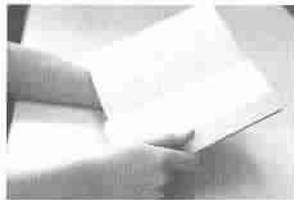
心の健康を損なう大きな原因はストレスです。ストレスは、何らかの要因により心身のバランスが不安定になることをいいます。

ストレスを感じる最初の段階では、血圧や血糖値が一時的に上下したり、いらいらするなどの症状が出ますが、ホルモンの分泌が盛んになるなど、体が自然にストレスに抵抗する働きをしてくれます。

ところがストレスが長く続くと、心身のゆがみがひどくなり、体の抵抗力が落ちて、不眠、食欲低下、頭痛、胃炎などさまざまな症状が現れます。

このように、ストレスを引

ストレス解消で心も元気に過ごしましょう



趣味を、ストレス解消に効果的な活動として取り入れましょう。

き金に起きる病気は発症するまで自覚しにくいいため、ストレスをためず、早めに解消することを勧めします。

また、笑うことが少なくなると、ささいなことでもいららする、外出しなくなるなどのサインが出るので、周りの方が気づいてあげることが大切です。

ストレスをためないようにするには、普段から次のことを心掛けましょう。

- ① 自分の気持ちを他人に話す
- ② 趣味の時間をつくる
- ③ 入浴や睡眠で疲れをいやす
- ④ 体の緊張をほぐすため体を動かす
- ⑤ 栄養バランスの良い食事を三食規則正しくとる
- ⑥ あれこれ考え込まず、目の前のことだけに集中する
- ⑦ よく笑う

自分に合ったストレス解消法を見つけ、心身ともに健康に過ごしましょう。

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

ジャズダンスサークル

「ジャズダンスサークル」は、昭和59年に結成され、会員数は現在30歳代から60歳代までの女性10人です。毎週1回、市民会館で軽快な音楽に合わせて、ジャズダンスで汗を流しているほか、毎年春には初心者無料で参加できる「ストレッチ・ジャズダンス講習会」も開いています。

このサークルの代表をしている岩倉允子さんは、「みなさん、ジャズダンスをはじめてから体の調子が良くなったと言いますね。なかには身長が伸びた方もいます。踊りで背骨のゆがみが矯正されるんですね。踊りは、ストレッチを取り入れ、体の柔軟性を高め、バランスを整えるために、弱った筋力が回復するよう工夫しています。音楽に合わせてみんな楽しく踊ることで、ストレス解消にもなりますよ。このサークルでは、自分のペースで踊ることもできますので、高齢の方でも楽しみながら健



軽快な音楽に合わせて、みんな楽しく踊ったあとは、いつも気分爽快です。



▲音楽に合わせて、楽しく踊る「ジャズダンスサークル」のみなさん

康維持をしています」とジャズダンスの効果などを説明してくれました。昨年の5月に開催された「ストレッチ・ジャズダンス講習会」でジャズダンスを体験し、このサークルに入会した石川陽子さんは、「初めてのジャズダンスでしたが、踊り終わった後の爽快感とサークルの陽気な雰囲気が気に入ったので、すぐにサークルに加えていただきました。参加してからまだ1年にもなりません。が、長年悩まされていた肩こりも和らぎ、体も軽くなったような気がします。体調が良いと気持ちも明るくなるのが、家族も喜んでくれています。週1回のジャズダンスは、わたしに元気を与えてくれてます。経験されたことのない方でも、気軽に参加できますよ」と笑顔で話してくれました。

入会を希望される方は、岩倉さん(☎25442)までどうぞ。

ちよつと ひらたん

楽しかったこと、悲しかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクス、電子メールでお寄せください。なお、個人や団体への中傷、営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
 ☎1122
 FAX1108
 Eメール:pr@city.noboribetsu.hokkaido.jp

登別に引越して来て気がついたことですが

登別に引越して来て、気になっ
ていることを少し言わせていただき
ます。

自宅の近所に小さな公園があるの
ですが、そこには遊具やベンチなど
何も設置されていません。これでは
公園の意味がないのではないかと思
いました。

また、昨年の「七夕」にたくさん
の子どもたちが買い物袋を下げ、次
々とお菓子をもらいにやって来たの
には、とても驚きました。

「七夕」の風習については、日本
の各地でさまざまなものがあるとは
思います。でも、この登別の「七
夕」の風習には、ちよつと疑問を感
じました。

町内会でお菓子を配るなど、統一
できないものかと思いました。

(桜木町 女性)

公園に関するご質問に お答えします

桜木町には小規模の公園が4カ所
ありますが、このうち遊具のない公
園は3カ所です。

ふるさとの 文化遺産



ちりゆきえ 知里幸恵の墓

【所在地】

登別市富浦町188番地1 富浦墓地

知里幸恵は明治36年、当時の登
別村に生まれ、6歳のとき、旭川
に住む伯母の金成マツのもとに移
り住みました。

幸恵は、「アイヌ民族最大の叙
事詩人」といわれた祖母の金成モ
ナシノウクから口承文芸を受け継
ぎ、国語学者の金田一京助さんの
勧めでアイヌ神話を記録。その一
部は、アイヌ民族自身による神話
の本格的な記録の先駆けといわれ
る『アイヌ神話集』として出版さ
れました。

大正11年、持病の心臓病のため、
19歳の若さで亡くなり、東京の雑
司ヶ谷霊園に埋葬されましたが、
昭和50年、ふるさと登別の富浦墓
地に改葬されました。

▶問い合わせ 社会教育課

(☎1122)

桜木町の町内会からこのうち特に
人口の増加している地区の公園に遊
具を設置してほしいとの要望があり
ましたので、平成13年度に遊具の設
置を予定しています。

現在、市内には遊具のない公園や、
遊具の老朽化に伴い取り替えが必要
な公園が数多くあります。

町内会によっては遊具を希望しな
いところもありますので、各地域の
町内会のご意見やご要望をお聞きし
ながら、毎年1、2カ所の公園に段
階的に遊具を設置しています。

今後設置にあたっては、町内会
のみなさんと協議して進めてまいり
ますので、ご理解をお願いします。

(建設部都市計画課)



あすなろ

まさひろ 学さん(27歳)

マツヤデンキ登別店勤務

次々と新しい電気製品が発売さ
れるので勉強は欠かせません

「接客する仕事が好きなのと、
時代の最先端の商品を扱えるので
この仕事を選びました」と入社
の動機を話す笹さんは、マツヤデン
キ登別店で主にオーディオ機器や
配送を担当しています。

「配送先のお宅で、納品したも
のとは別の電気製品の相談を受け
ることがよくあります。デジタル
化が進み、次々と新しい電気製品
が発売されるので、商品知識の勉
強は欠かせませんね。お客様から
聞かれて答えられなかったら悔し
いですから」と笹さん。

「電気製品によっては、少々価
格が高くても電気消費量が少な
く、電気代が安く済む商品がある
ので、購入される際にはぜひ相談
してください」と購入後の省エネ
にも気を配っています。



若者たちが出席したい
と思える成人式を
つくりたい

華やかな晴れ着や真新しいス
ツを身にまとい、大人の仲間とし
て迎えらるる成人式。

「登別市の成人式は、『登別市
成人祭』として、市や市内の若者
たちで構成される『登別市成人祭
実行委員会』が行っています。

「成人祭」は、成人式という堅苦
しいイメージや枠にとらわれず、
若者の発想を取り入れ、祝祭とし
て楽しもうという意味を込め、平
成5年から登別マリナーパークニク
スなどの市内のテーマパークを会
場に行っています。これまでの成
人式は、行政が主催しているとい
ろがほとんどでしたが、実行委員
会形式で行うところが増えている
ようです」と話すのは、同実行委
員会実行委員長の伴さん。

成人式は、大人としての 自覚や責任を認識する 大事な式典

「今年の成人祭には、市内の新
成人対象者総人のうち副人が参加
し、76・1割という過去最高の出
席率になりました。式典では、多
少のざわつきはありましたが、新
成人を祝う来賓の祝辞も、祝福の
言葉として真しに受け止め、モラ
ルを守った節度ある盛り上がり方
で、やんちゃなところはあられ



▲登別マリナーパークニクスのドルフィン館で行われた
「平成13年登別市成人祭」

ど、明るくて自由、活発という印
象を受けました」と、成人祭を振
り返ります。

「全国の成人式では、一部の新
成人が大騒ぎをしてテレビや新聞
などで報道されていました。また
その報道を見て、成人式はなくす
べきだという人もいるようですが、
私はやめるべきではないと思いま
す。成人式とは、これからの未来
を担う仲間を歓迎する祭典であり、
大人としての自覚や責任を認識す
る大切な目でもあります。大人に
なるということは、社会人として
の義務や責任を持たなくてはなり
ません。しかし、責任が生じる代
わりに、自分のやりたいことや夢
の実現に「近づいた」ということ
も忘れないでほしいです」と、21
世紀を担う若者たちに熱いメッセ
ージを送っています。



KIRARI

ばん たく や
伴 拓也さん(片倉町)

20歳を迎え、新しく大人の仲間入りをする
新成人を祝う『成人式』。

しかし、出席する若者たちのモラルが低下
し、成人式の在り方が今、問われています。

登別市の成人式を企画・運営する「登別市
成人祭実行委員会」の実行委員長を務め、今
年の成人祭を盛り上げた伴さんに、成人式の
持つ意味と在り方について話を聞きました。

登別市の未来を担う 新しい仲間たちを歓迎 します。



昭和47年4月、苫小牧市生まれ。28歳。

小学生のころの恩師と教諭として活躍していた父の姿にあこがれ、平
成10年に教職に就く。平成12年4月に青葉小学校に赴任。同年11月に
『登別市成人祭実行委員会』実行委員長に就任し、地域振興に努める。



情報あらかる

市営住宅の申込方法を 変更します

市は、市営住宅の入居の申し込みを随時受け付けていましたが、4月1日から、市営住宅に空室が出た時点で期間を定めて申し込みを受け付け、公開抽選で入居者を決定することにしました。

募集のお知らせは、広報のほりべつなどでお知らせします。

なお、今年の3月以前に入居の申し込みを済ませた方は、これまでどおり、再度書類審査の後、順次入居できます。

▼問い合わせ 建築課

(☎4399)

埋蔵文化財の保護に ご協力ください

地域の歴史や文化を知る上で貴重な遺跡は、文化財保護法により「埋蔵文化財包蔵地」として保護され、勝手に掘り返したり、建物を建てたりすることはできません。

市内には24カ所の埋蔵文化財包蔵地があります。この埋蔵文化財包蔵地やその周辺で、建設工事や土木工事などを行う場合は、文化財保護法

に基づき、事業者は事前に地元の教育委員会に届け出をしなければなりません。

各埋蔵文化財包蔵地の範囲については社会教育課で縦覧できます。

※詳しくはお問い合わせください。

▼問い合わせ 社会教育課

(☎1129)

奨学生を募集します

奨育英会は、高校、高専、専修学校（入学資格が高校卒で、修業年限が2年以上の専修学校）、短大、大学に4月から入学する方を対象に、平成13年度の奨学生を募集します。

▼奨学金（月額）

●高校生：1万円

●高専・専修学校・短大生：1万5千円

●大学生：2万円

▼申し込み 3月30日（金）までに、

奨育英会事務局（教育委員会総務課内 ☎1100）

小・中学生の

就学援助を行います

経済的に困っている家庭の小・中学生のために、就学に必要な費用を

援助する制度があります。

▼援助の内容 学用品費、給食費、校外活動費、修学旅行費、医療費など

※詳しくはお問い合わせください。

▼問い合わせ 在学中・入学予定の

学校または学校教育課

(☎1162)

目症戦傷病者の方へ 書状・銀杯が贈呈されます

厚生労働省は、旧軍人または旧軍人の方で、戦後これまでの期間に年金に相当する恩給などの給付を受けていない、いわゆる目症の障害をもつ戦傷病者の方へ、これまでのご労苦を慰労することを目的に、内閣総理大臣名の書状と内閣総理大臣の

刻印の入った銀杯を贈呈する事業を行っています。

▼申し込み 3月31日（土）までに、北海道保健福祉部保護課（☎011-2141111内線25189）

※請求期限を過ぎた場合は、書状や銀杯を贈呈できません。

排水設備工事指定店の 指定取り消しについて

広報のほりべつ5月15日号でお知らせした排水設備工事指定店のうち、次の工事指定店の指定を取り消しましたのでお知らせします。

▼指定店名 南アルファ設備工業（栄町2丁目1番地1）

▼問い合わせ 下水道課

(☎9052)

4月の粗大ごみ収集

粗大ごみの収集は、地域ごとに決められた年2回の収集時期に、電話の申し込みにより行います。

粗大ごみを出すときは、1枚160円のごみ処理券を購入の上、1品ごとにごみ処理券を張ってください。

▶申込方法 収集日初日の2週間前から収集日初日まで（土・日曜日、祝日を除く）の8時30分～17時に電話で環境資源課へお申し込みください

4月の粗大ごみの収集日・地区		
地区名	収集日	申込期間 (土・日曜日、 祝日を除く)
富浦町1～5丁目・寺町・登別本町・登別港町	4月2日月 ～4月7日土	3月19日月 ～4月2日月
青葉町・緑町・鉾山町・川上町	4月9日月 ～4月14日土	3月26日月 ～4月9日月
カルルス町・上登別町・登別温泉町・中登別町	4月16日月 ～4月21日土	4月2日月 ～4月16日月
美園町4～6丁目	4月23日月 ～4月28日土	4月9日月 ～4月23日月
新生町5～6丁目・若草町5～6丁目・上登別町	4月30日月 ～5月5日土	4月16日月 ～5月1日火

※このほかの地区の収集日については、「家庭ごみ収集カレンダー」に掲載しています。また、今後の「広報のほりべつ」でも紹介していきます。

申し込み
問い合わせ 環境資源課 (☎2958)

4月1日から 漁船以外も登別漁港の 船揚場施設を使用できます

北海道漁港管理条例が改正され、4月1日から、登別漁港の船揚場施設で、ボートトレーラーを使用するなどの要件を満たした、漁船以外の船艇の揚げ降ろしができます。

なお、使用を希望する方は、事前に許可申請が必要です。

▼申請方法 使用日の前月の1日から15日までに、農林水産課に備え付けの許可申請書に必要書類を添えて申請してください。なお、許可された場合には使用料の納付が必要ですが、また、申請者が多い場合は、抽選となります。詳しくはお問い合わせください。

※登別漁港・富浦漁港は、これまでどおり漁船以外の船艇は利用できません。

▼問い合わせ 農林水産課
(☎2321)

レーザーポインターの 取り扱いにご注意を

会議や講演会などで指示棒代わりに使われるレーザーポインターは、最近、小・中学生の遊び道具やゲームの景品などとして販売され、子ども同士がレーザー銃として撃ち合い、網膜を傷つけるなどの事故が発生しています。

このため、3月1日(木)から消費生

活用製品安全法に

基づき、レーザーポインターは一定の基準を満たしている製品(PSCマークが付いているもの)以外は販売や陳列が禁止されます。



なお、安全基準を満たしているレーザーポインターを使用する場合には、使用上の注意をよく読み、必ず大人の管理のもとで使用しましょう。

また、これまで市販された製品には、危険なものもありますので、大人が保管し、子どもには使用させないようにしましょう。

▼問い合わせ 胆振支庁環境生活課
(☎9131)

ふるさと料理教室に 参加しませんか

文化・スポーツ振興財団主催
▼日時 3月22日(木) 9時30分～13時

▼場所 市民会館調理室

▼内容 魚介類を使った料理

▼対象 市内に居住または通勤する方

▼定員 40人(申込順)

▼受講料 300円(材料費など)

▼講師 熊谷信子さん(登別市食生活改善推進員協議会会長)

▼持ち物 エプロン、ふきん、三角巾などの頭を覆うもの

▼申し込み 3月6日(火)から13日(水)までの9時から17時までに(土・

日曜日を除く)電話で文化・スポーツ振興財団(☎1116)

軽スポーツ指導者派遣 事業をご利用ください

文化・スポーツ振興財団は、学校や職場などのレクリエーションとして行われる軽スポーツの指導者を派遣しています。ぜひご利用ください。

▼派遣対象事業 10人以上の市民が参加して行われる軽スポーツ

▼指導時間 2時間程度

▼指導料・用具の貸し出し 無料

▼種目 スポンジテニス、ティール、ドッジボール、グラウンド・ゴルフ、フロアカーリング、キックベースボールなど

▼申込方法 文化・スポーツ振興財団に備え付けの申込用紙に必要事項を記入の上、お申し込みください。

▼申し込み 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

不審電話にご注意を

最近、社会保険事務所や社会保険事務局の名で、オンラインが故障したことなどを理由に、ご主人の勤務先や電話番号などの個人情報聞き出す電話がかかってくるという情報が寄せられています。

社会保険事務所などでは、個人のお宅に電話で家族の方の勤務先など

3月は道税の 納税推進強調月間です

胆振支庁は、3月を「納税推進強調月間」として、特に自動車税と個人事業税を重点に、道税の滞納整理に取り組みます。道税は、住みよい北海道をつくるための重要な財源です。道税の納税にご協力ください。

問い合わせ

胆振支庁税務課
(☎9131)

少年の非行を 防ぎましょう

学年末から新学期にかけては、春休みの開放感や進学、就職などに伴う環境の変化から心理的動揺による家出少年が増加します。

また、不安定な少年心理につけ込んだ福祉犯罪の被害者となるケースが多く見られます。

いつも子どもたちの行動に関心を持ち、少年の保護や非行防止に努めましょう。

▼問い合わせ 室蘭警察署

(☎0110)

着用しましょう
チャイルドシート



チャイルドシートの着用が義務づけられてから、4月で1年になります。

6歳未満のお子さんを自動車に乗せるときには、必ずチャイルドシートを着用させなければなりません。幼児は、足が車の床に届かず、衝突や急ブレーキを踏んだ際には自分の足で踏ん張ることができません。大切なお子さんを交通事故から守るため、チャイルドシートの着用を習慣づけましょう。

▼問い合わせ 市民課

(☎ 1855)

登別市卓球少年団の団員を募集します

▼対象 市内に住む小学4年生から6年生で、週3回練習に参加できる健康な方

▼練習時間・回数 18時30分から2時間程度・週3回

▼練習場所 総合体育館

▼用意するもの ラケット、運動靴

▼会費 月会費1千500円(傷害保険料、練習用具代、父母の会費)

▼申し込み方法 官製はがきに住所・氏名(本人と保護者)・学校名

・学年・電話番号を記入し、3月31日(土)までに郵送してください

▼申し込み 仲井孝さん(〒031-0032 新生町5丁目16番6号)

(☎ 4627)

登別山岳会の会員を募集します

登別山岳会は、一緒に山に登る仲間を募集します。

▼対象 市内に居住する健康な方

▼会費 年会費5千円(ほかに山岳保険料がかかります)

▼申し込み 河村さん

(☎ 2069)

子育てサークル

『わんぱくキッズ』会員募集

子育てサークル『わんぱくキッズ』(旧サークル名『うんちーズ』)は、一緒に遊ぶ仲間を募集します。

▼対象 1歳から4歳までの子どもとそのお母さん

▼日時 毎週木曜日 10時~12時

▼場所 若草婦人研修の家など

▼会費 入会金1家族500円、月会費400円(2人目から100円)

▼申し込み・問い合わせ 滝井さん(☎ 3083)または藤本さん(☎ 4122)

各種使用料などの納付に 便利な口座振替が 利用できます

4月
から

市税のほか、4月からは各種使用料などの納付も口座振替をご利用いただけます。

納め忘れを 방지、納期ごとに金融機関などへ行く手間が省けます。この機会に便利な口座振替をぜひご利用ください。

●口座振替ができる 市税や使用料など

- 市税 固定資産税・都市計画税、市民税、軽自動車税
- 使用料など(4月から) 公営住宅使用料、公営住宅駐車場使用料、幼稚園保育料、保育所運営費保護者負担金、建物貸付収入、知的障害者保護措置費収入、老人保護措置費収入、し尿処理手数料(後納申請書が必要です)

●口座振替ができる 金融機関

- 登別・室蘭市内の銀行、信用金庫、信用組合、農協、漁協、郵便局
- 申込方法 金融機関、市役所税務課、各支所に備え付けの口座振替依頼書に必要事項を記入の上お申し込みください

問い合わせ
税 務 課
(☎ 1155)

登別市 Home Page

市のホームページから リンクしませんか

登別市の公式ホームページは、昨年10月にリニューアルしてから、毎日150件ほどのアクセスをいただいています。

このホームページ内には「リンクのページ」を設けており、現在個人・企業合わせて約30件のホームページにリンクしています。

ホームページを開設されている市内の個人・企業のみなさんでリンクを希望される方は、ぜひご連絡ください。

☑ **リンクの申込方法** 「リンク希望」と明記し、次の必要事項を記入の上、Eメールでお申し込みください

- 団体、企業名(正式名称)、個人名
- 業務、営業、団体の具体的な内容
- 住所、電話番号、代表者氏名
- Eメールアドレス・リンク先アドレス

☑ **申し込み** 行政管理課(☎ 5109)

- Eメール: info@city.noboribetsu.hokkaido.jp
- ホームページ: http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp

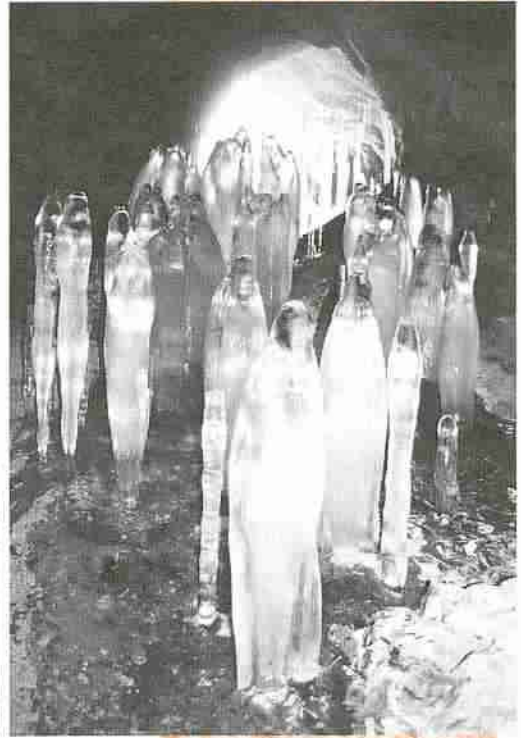
のほりべつ



▲樹氷をまといその姿を
▲美しく飾った樹木



氷の精のような姿をした氷筍



自然が作り出す
幻想的な冬の造形美

吐く息も白く、身を縮めるような厳しい寒さが続く冬の季節。自然豊かな私たちのまち「のほりべつ」では、自然が作り出す幻想的な造形美「氷筍」や「樹氷」を見ることが出来ます。

「氷筍」は、カルルス温泉サンライバスキー場から約4kmの坑道跡で見ることができ、坑道跡の天井から染み出した地下水などが地上で凍り、上に向かって伸びていく現象。

「樹氷」は、道道洞爺湖登別線のオロフレ峠山頂付近で見られ、吹き付けられた空気中の水分や霧が樹木に凍りついてできるもの。晴れた日には、陽光を浴びてキラキラと輝きます。

この自然現象は、その年の気象状況にもよりますが、12月初旬から3月末ころまで見ることが出来ます。

▼問い合わせ

観光室 (☎2018)

好き
このまちが
まちの風景
3月

と な り ま ち ・ ホ ッ ト ラ ン

白老町

第15回歩くスキー白老の集い
『四季彩街道ツアーリング』

子どもからお年寄りまで楽しめる冬のスポーツ『歩くスキー』。道道白老大滝線『四季彩街道』の雪景色を満喫しながら心地良い汗をかいてみませんか。

- ▶日時 3月11日日 9時受け付け
- ▶集合場所 森野福祉館
- ▶参加料 500円(保険料を含む)
- ▶申込期限 3月6日火

※昼食にはジンギスカンを用意しますので、おにぎりなどをご持参ください。

▶申し込み 白老町体育協会
(☎0144-6041)

室蘭市

今年の春は室蘭で2試合開催
コンサドーレ札幌を応援しよう

- 【J1リーグ戦】4月7日土 14時
対東京ヴェルディ1969
- 【ヤマザキナビスコカップ1回戦】
4月18日水 13時 対大分トリニータ
- ▶場所 室蘭市入江陸上競技場
- ▶チケット取扱先 丸井今井室蘭店ほか
- ▶チケット料金 S指定席:4,000円、
A自由席:大人2,500円、小・中学生
1,300円、B自由席:大人2,000円、
小・中学生800円
- ▶問い合わせ コンサドーレ札幌
(☎011-2936)

伊達市

パフ・ファミリーの『イキイキ
わくわく音楽会』に集まろう

歌や演奏をはじめ、わくわくヒットメドレー、イキイキダンス、そして愉快なお話いっぱいコンサートです。

- ▶日時 3月25日日 13時30分開演
- ▶場所 だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール
- ▶入場料 小学生以上1,000円、幼児無料(ただし無料入場券が必要です)
- ▶プログラム クマンバチの飛行、アンパンマン体操、虹の向こうにほか
- ▶問い合わせ 伊達メセナ協会事務局
(社会教育課内☎0142-21515)